

昆虫のからだと成長

「サナギホルダーの威力」(3年)

昆虫の変態という成長のしかたは、実に神秘的です。特にサナギから羽化する瞬間というのは、あらゆる自然界の営みの中でも、最も劇的なものに属するでしょう。

ある日、3年生の女兒が小さな飼育ケースを持って理科準備室を訪ねてきました。

「先生、アゲハの幼虫を飼っていたら、全部サナギになって、天井にたくさんぶらさがってるの。このままチョウチョになったら、羽がぶつかってかわいそう。」

と訴えます。見れば、ケースの蓋の裏に、びっしりアゲハのサナギがぶらさがっています。ざっと20個！私はそのケースを預かって、「サナギホルダー」を作ってあげました。サナギホルダーというのは、厚紙(板目紙)を小さく切って、サナギのお尻(テープ)と腰(細い針金など)を支えてあげるものです。裏にゴム磁石もつけて、黒板やホワイトボードに貼れるようにしました。文字通り「生きた教材」です。

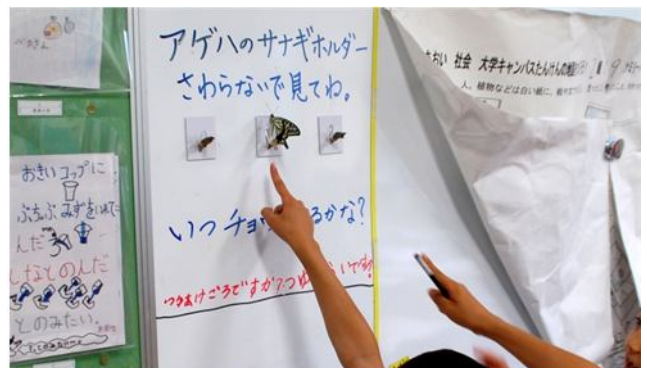
アゲハの羽化は、わずか数十秒で終わってしまいます。この方法だと羽化の一瞬に出会う確率が格段に高くなります。果たして、子どもたちは1時間目のはじめに、羽化の一瞬を観察することができました。

子どものノートから

「さなぎホルダーは、とても、おもしろいです。さいしょは、生きているのかな?と思いました。時々黒板でぴくぴく動くので、生きてるとわかりました。」

「朝の会がおわって、1じかん目のさんすうの時に、さなぎがうかしました。すぐに出てきて、さなぎのぬけがらみたいのに、しがみついていた。あとではねをぱたぱたして、かわかしていました。それから2じかんぐらいして、きょうしつの中をとんで、マイク(スピーカの誤記)のところにとまっていた。」

教師のちょっとした工夫が、大切な一瞬を逃さないチャンスを作るのですね。



アゲハチョウの「サナギホルダー」の作り方

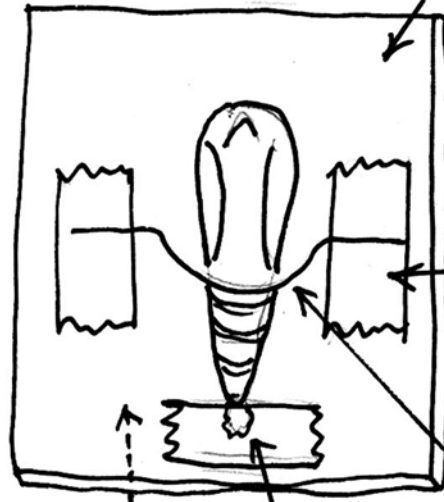
2014 (H26), -6, 13 理科部

この糸は
はさみで切ります

かべや虫かご

尾の部分は綿のような
糸のかたまりでささられて
います。そのかたまりごと
しんちょうにはなします

あつ紙や段ボール
できるだけザラザラの紙
横7cm、たて10cm



セロテープ

尾の綿のような
糸のかたまりを
セロテープで
はります

細い針金か
クリップを
曲げたもの
(注意)
強くしめつけ
ないように
なるべく下の
ほうにつけます

うらにじしゃくを
つけておくと
黒板やとだなに
はれます



リボン針金
で作った例



クリップ
で作った例



羽化したアゲハチョウ
羽がかわくまで2時間
ぐらいつかまっています